甲賀市勅旨水害履歴マップ　その①　ー地域特性ー

（H28.9.14　甲賀市勅旨会館で行った聞き取り調査に基づき作成）

0　200m　N

凡例　水の流れ　浸水しやすい場所　一次避難所　幹線水路

勅旨区内の山地について

・主に大戸川周辺の山地は花崗岩地質である。地元では左岸側より、右岸側の方が地質的にもろいと考えられている。
・周辺の山は、獣害(山の鹿）により下草がなくなり荒廃している。
・昔は田の水を大戸川からではなく山から引いており、水温が低かったため稲が実りにくかった。

勅旨区内の大戸川の特徴

・大戸川は上流の集水域が広いため、勅旨区内の降水量に関わらず、上流に降った雨が原因となって洪水が起こる。
・上流から下流までの標高差が小さく、勾配が緩やかであり、水が排水されにくい。
・かつては水害の度に護岸が削られ川幅が広がっていったため、その都度復旧されてきた。多羅尾豪雨（昭和28年）の水害後に護岸が整備されてからは削られなくなった。
・かつて大戸川に架かる橋はすべて土橋だった。水害の度に橋が流されたが、その都度架け替えられている。

岩倉橋
←岩倉川
名古瀬橋
八坂神社
以前の頭首工は石垣でできていたが、現在はファブリダム式になっている。それ以降上流側の河床が1m以上下がった。
頭首工
保良山（ほらやま）
昭和28年の水害後に、大戸川の左岸が高くなったことで、それ以後右岸側の西恩寺が浸水するようになった。
←大戸川
西恩寺
八幡神社
昔公民館があったところに18年ほど前に新しく建てられた。
勅旨駅
勅旨会館
天神神社
12～13年ほど前に、公園の地下に防火水槽が造られた。
公園
20年ほど前までは報徳社の駐車場として使われていた。
(旧)西恩寺橋
西恩寺橋
鳥居迫（とりいはさま）
草の根広場
高田（少し土地が高い）
山が迫ってボトルネックになっているため、増水時には地区内から水が排水しきれず、あふれる。
昭和28年多羅尾豪雨発生以前の西恩寺橋の位置。多羅尾豪雨によって流され、復旧される際に現在の位置に架けられた。
国道307号線
信楽高原鉄道
玉桂寺付近の用水路は雨が降る度に土砂が詰まり、浸水被害を引き起こす。
雨止待（あめやまち）
第一大戸川橋梁
玉桂寺
山門橋
山門橋
上の前橋
法林寺
(旧)勅旨橋
勅旨橋
大昔ここに屋敷があったため、大戸川の流路がそれを迂回するような形になったという説がある。屋敷の隣にはケヤキの並木があった。戦前には大戸川をまっすぐに付け替える案があったが実現しなかった。
↑葛上川（天井川）
大戸川の増水時には、大戸川の支流である中小河川（葛上川や山門川など）の水が大戸川に流入できなくなり、水が溢れてしまう。
金刀比羅神社
↑山門川
昭和28年多羅尾豪雨発生以前の勅旨橋の位置。多羅尾豪雨によって流され、復旧される際に約200m上流の現在の位置に架けられた。
天一神社
江戸時代(1830年頃)に大水があった際の土砂、廃材などのゴミを集めた所である。
堰堤
勅旨区内には、大戸川系の農業用水の幹線水路が左右岸にあり、このうち左岸側は大井と呼ばれている。昭和28年多羅尾豪雨の際には、幹線水路よりも標高の高いところまで浸水した。平成25年台風18号の際は、左右岸ともこの幹線水路までは浸水していない。
勅旨区の橋脚は流されやすく、被害がある度に修復された。

作成　立命館大学　防災まちづくり研究室　（甲賀市都市計画基本地図　F-11 F-12 G-11 G-12　上に作成）